

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
語学ビジネス専門課程	国際キャリア学科	夜・通信	240	240	
	アジア言語学科	夜・通信	180	160	
	エアライン学科	夜・通信	180	160	
	国際ビジネス学科	夜・通信	180	160	
	グローバル学科	夜・通信	180	160	
	こども教育研究学科	夜・通信	330	320	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信	0	80	○
	日本語（2年）	夜・通信	0	160	○
	日本語（1.5年）	夜・通信	0	120	○
	日本語（1年）	夜・通信	0	80	○
(備考) こども教育研究学科 2024年4月入学生より募集停止					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ： https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/kokusai_work_experience.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) 実務経験のある教員の配置が困難である理由については、日本語学科および国際コミュニケーション学科が特定の職業ではなく、外国人留学生が総合的に日本語を学ぶコースであり、告示基準等に基づいて教員を配置しているため。また、日本語学科および国際コミュニケーション学科の成績評価については、今回4月時点で家族滞在ビザが無償化の対象となったが、6月30日までの期間内の申請でGPAを算出することが時間的に困難であったため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人 山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf 6 ページ参照
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員 (1983. 5. 1 ～ 2011. 4. 30) 2011. 5. 1 以 降は「無職」	1991. 11. 15 ～2027. 3. 31	学校経営に関する こと
非常勤	税理士事務所経営 (1984. 6. 1～)	2010. 6. 1 ～ 2027. 3. 31	財務に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。	
授業計画書の公表方法	http://www.ecc.ac.jp/syllabus/kokusai/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。 第4章 単位認定 第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%)以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される 「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。また、Web サイトでも公開している。

第4章 単位認定

第11条 (成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学園では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」の GP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1 単位あたりの成績の平均値である。

GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位は GPA の計算に算入されない。

客観的指標に関する判定に GPA を利用する際は、各校で当該単年度の全学生※を母集団として算出する。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開 eddkcf1_HANDBOOK.pdf (ecc.ac.jp) ※27ページ目参照
----------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
教育目標に基づいたディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。

業の認定に関する 方針の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開 eddkcf1_HANDBOOK.pdf (ecc.ac.jp) ※6～19ページ目参照
---------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC 国際外語専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance002.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance001.pdf
財産目録	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance003.pdf
事業報告書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-project.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance004.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際キャリア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2,565 単位時間／単位	2,700 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2,700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
345 人		141 人	0 人	12 人	18 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。

卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49 人 (100%)	0 人 (0%)	48 人 (98%)	1 人 (2%)
(主な就職、業界等) スカイマーク、CKTS、FDA、羽田空港サービス、ZIP AIR TOKYO、スプリングジャパン、ANA ウイングス、ANA 沖縄空港、K スカイ、韓進インターナショナルジャパン、ANA 関西国際空港、ANA 大阪空港スカイマーク、ANA 福岡空港、ANA エアポートサービス、JAL スカイ大阪、JAL スカイ、キャノピーBY ヒルトン大阪梅田、HOTEL THE MITSUI KYOTO、セントレジスホテル大阪、シェラトン都ホテル大阪、W 大阪、テクニカルノア、鴻池運輸、ヒラノスカイサポート、エバンド、ソリッド、日本製線			
(就職指導内容) 就職個別面談、就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、空港・施設見学、e ラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級) 24 名、実用英語技能検定(準1級) 5 名、TOEIC (600 点以上) 29 名、サービス接遇検定(準1級) 34 名、サービス接遇検定(2級) 17 名、アマデウスシステム検定試験(specialist) 32 名、マナー・プロトコール検定(3級) 29 名、マナー・プロトコール検定(2級) 2 名、ユニバーサルマナー検定(2級) 33 名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
156 人	6 人	3.8%
(中途退学の主な理由) 意欲低下、進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		語学・ビジネス専門	アジア言語学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710 単位時間／単位	1,800 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1,800 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
160 人		103 人	0 人	4 人	16 人		20 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
51 人 (100%)	11 人 (21.6%)	38 人 (74.5%)	2 人 (3.9%)
（主な就職、業界等） ゴディバジャパン、エーデルワイス、ひらまつ、KCJGROUP、アイリス警備保障、 ミュゼプラチナム、ウエハラ、JR 西日本フードネットサービス、朝日エアポート サービス、ホテルグランヴィア京都、全日警、鴻池運輸、アネックス、 リンツ&シュプルングリージャパン、アイバン、エフ・ディ・シーフレンズ、 全日空、トラベレックスジャパン、キャメル珈琲、有馬ビューホテル、 セイハネットワーク、ヴァンドームヤマダ、ECC、リーベルホテルアット USJ、 太洋の塔、アルプス物流、ホテルモントレ、フェイラージャパン、東京国際 エアカーゴターミナル、京阪ホテルズ&リゾーツ			

(就職指導内容) 就職個別面談、就職関連授業(業界研究、ES・筆記・面接対策、他)、各種ガイダンス、ホテル施設見学、e ラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、個別面談、受験サポート、ビジネスマナー、韓国大学編入指導他
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級) 3名、TOEIC (500点以上) 11名、韓国語能力試験(1級) 9名、韓国語能力試験(2級) 27名、韓国語能力試験(3級) 17名、韓国語能力試験(4級) 16名、韓国語能力試験(5級) 13名、韓国語能力試験(6級) 4名、「ハングル」能力検定試験(準2級) 5名、「ハングル」能力検定試験(3級) 23名、「ハングル」能力検定試験(4級) 1名、サービス接遇検定(準1級) 6名、サービス接遇検定(2級) 18名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92 人	7 人	7.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、意欲低下、学力不振、体調不良、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	エアライン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710 単位時間／単位	1,800 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			18,00 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
96 人		27 人	0 人	4 人	7 人	11 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。

成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	2人 (16.7%)	10人 (83.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ANA 関西空港、韓進インターナショナルジャパン、ANA 大阪空港、JAL スカイ、ANA 福岡空港、ANA エアポートサービス、スカイマーク			
(就職指導内容) 就職関連授業(ES・筆記・面接対策、エアラインリサーチ、プレゼンテーション、エアラインTOEIC、CA補講他)、各種ガイダンス、卒業生との交流会、内定者セミナー、インターンシップ、学内企業説明会、航空業界企業様による講演、指定校推薦選考会他			
(主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(2級)5名、TOEIC(600点以上)4名、サービス接遇検定(準1級)11名、アマデウスシステム検定試験(specialist)11名、マナー・プロトコール検定(3級)7名、ユニバーサルマナー検定(3級)11名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際ビジネス学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710 単位時間／単位	1,800 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1,800 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
126 人		67 人	0 人	3 人	15 人		18 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
45 人 (100%)	42 人 (93.3%)	0 人 (0%)	3 人 (6.7%)
（主な就職、業界等） ●国立編入（合計8名） 宇都宮大学(国際学部)1名、愛媛大学(法文学部)3名、高知大学(人文社会科学部)1名、埼玉大学(教養学部)2名、北海道大学(法学部)1名 ●公立編入（合計6名） 北九州市立大学（外国語学部）1名、北九州市立大学（経済学部）1名、北九州市立大学（文学部）1名、高崎経済大学(地域政策学部)1名、都留文科大学(文学部)1名、名桜大学(国際学群)1名 ●私立編入（合計38名）			

追手門学院大学(経済学部) 1 名、大阪経済大学(人間科学部) 1 名、関西外国語大学(英語国際学部) 2 名、関西外国語大学(外国語学部) 1 名、関西国際大学(国際コミュニケーション学部) 1 名、関西大学(総合情報学部)5 名、京都外国語大学(外国語学部) 1 名、京都精華大学(国際文化学部) 1 名、近畿大学(経営学部) 7 名、サイバー大学(IT 総合学部) 1 名、上智大学(経済学部) 1 名、中央大学(経済学部) 1 名、東京経済大学(経営学部)1 名、東京経済大学(経済学部)1 名、東京女子大学(現代教養学部) 1 名、同志社大学(文学部) 1 名、平安女学院大学(国際観光学部)1 名、明治学院大学(国際学部)1 名、桃山学院大学(経営学部)1 名、桃山学院大学(国際教養学部) 1 名、桃山学院大学(社会学部)2 名、龍谷大学(経済学部) 2 名、龍谷大学(社会学部) 1 名、龍谷大学(政策学部) 2 名 ※上記人数はのべ (就職指導内容) 基本英書講読、人文科学各分野入門授業・基礎ゼミナール、論文演習、各専門別英書講読(法学・政治政策学・経済学・経営学・社会学・心理学・言語文化・国際関係)、各専門別研究指導、専門演習、専門分野応用授業等及び、編入対策面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導他 (主な学修成果(資格・検定等)) 実用英語技能検定(準1級) 1 名、実用英語技能検定(2 級) 12 名、実用英語技能検定(準2 級) 1 2 名、TOEIC (600 点以上) 15 名 (備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
98 人	6 人	6.1%
(中途退学の主な理由) 体調不良、意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	グローバル学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,710 単位時間／単位	1,800 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1,800 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
326 人		154 人	109 人	12 人	19 人	31 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
102 人 (100%)	5 人 (4.9%)	90 人 (88.2%)	7 人 (6.9%)
（主な就職、業界等） ANACargo、佐川急便、NAXJAPAN、イツワ商事、日本通運、栃本天海堂、ロジスティード八尾トヨヨー住器、パソナグループ、サンヨー航空サービス、SixSenses 京都、ベジコープ、AsiaPacificProduce、アサヒヒューマンリソース、スイスポートジャパン、ブロンコビリー、ヤハタ、日本通運、白ハト食品工業、空港専門本店、センタラグランドホテル、グランドニッコー淡路、アゴーラホスピタリティーズ、インターコンチネンタルホテル大阪、セントレジスホテル大阪、阪急ハロードック、JSS、法華倶楽部、ニチイ学館、フェリーサービス、JR 西日本 フードサービスネット、羽田空港サービス、にしけい、クリア、フェデックス、トラベレックスジャパン、CKTS、ラッシュジャパン合同会社、日本通運、センコー、ロマンライフ、ミュゼプラチナム、LAVA、朝日エアポートサービス、京阪ホテルズ&リゾート、エスエーエス、ANA 大阪空港等			
（就職指導内容） 就職個別面談、就職関連授業（業界研究、ES・筆記・面接対策、他）、各種ガイダンス、e ラーニング説明会、インターンシップ、学内企業説明会/選考会、受験サポート、ビジネスマナー、ホテル・物流施設見学、外国人向け人材会社登録サポート、個別面談、就労ビザセミナー、ビザ切り替えサポート他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 実用英語技能検定(2級) 14 名、実用英語技能検定(準1級) 2 名、TOEIC (600 以上) 45 名、日商簿記検定 (3 級) 1 名、国際航空貨物取扱士 1 名、貿易実務検定(B 級) 2 名、貿易実務検定(C 級) 9 名、日商ビジネス英語検定(3 級) 6 名、日本語能力試験(N1)			

4 名、日本語能力試験(N2) 17 名、BJT ビジネス日本語能力テスト(J2) 7 名、BJT ビジネス日本語能力テスト(J3) 14 名、ユニバーサルマナー検定(3 級)21 名、グローバル人材ビジネス実務検定 (3 級) 23 名 (備考) (任意記載事項)
--

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
150 人	8 人	5.3%
(中途退学の主な理由) 学力不振、進路変更、体調不良、意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	こども教育研究学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3, 420 単位時間／単位	3, 600 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			3, 600 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
88 人		23 人	0 人	3 人	24 人	27 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が 75%以上であること。総合評価点が 60 点以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 【進級の要件】 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等
(概要) 担任面談、保護者会、電話等による個別指導、HR を活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職・業界等) キンダーキッズ、いづる保育園、ぬくもり保育園、ライクキッズ、三幸学園、関西国際学園			
(就職指導内容) こども保育就職対策（幼稚園/保育園/インターナショナルスクール受験用）、公務員試験対策、ビジネスマナー、学内企業説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 実用英語技能検定(2 級) 2 名、実用英語技能検定(準 2 級) 2 名、TOEIC (600 以上) 5 名、保育士資格 (9 名)、幼稚園教諭一種免許状 (9 名)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による個人面談、出席管理、保護者会実施、欠席補講制度、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学・ビジネス専門	国際コミュニケーション学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	800 単位時間／単位	884 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210 人		175 人	175 人	6 人	19 人	25 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 授業出席率が75%以上であること。総合評価点が60点以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】 各コースに設定された単位のうち、48単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。
学修支援等
（概要） 担任面談、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
83 人 (100%)	77 人 (92.8%)	0 人 (0%)	6 人 (7.2%)
（主な就職、業界等） 大阪公立大学大学院、関西学院大学大学院、立命館大学大学院、関西大学大学院、早稲田大学大学院、同志社大学大学院、鹿児島大学、公立鳥取環境大学、学習院大学、関西学院大学、立命館大学、関西大学、同志社大学、龍谷大学、追手門学院大学、福井工業大学、京都産業大学、ECC コンピュータ専門学校、修成建設専門学校			
（就職指導内容） 進学対策講座、JLPT 対策講座、EJU 対策講座、大学院ゼミ講座、論文作成講座、研究計画書デザイン講座、学内進学説明会、面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験(N1) 14 名、日本語能力試験(N2) 20 名、日本語能力試験(N3) 3 名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	5 人	5.7%
（中途退学の主な理由） 進学、進路変更		

(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および教務課による個人面談、出席管理、保護者連絡、学生アンケートの実施、 学生相談室との連携

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学ビジネス 専門課程	日本語学科（２年）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼間	1700 単位時間／単位	1800 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		160人	157人	4人	23人	27人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を満たすことで行う。 評価はすべての科目において A～F 判定のうち D 判定以上であること。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【卒業の要件】 卒業認定は以下の基準を全て満たすことで行う。入学後卒業までに4回以上定期テストに合格していること。出席率が80%以上であること。
学修支援等
(概要) 担任面談、電話等による個別指導、HR を活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
61人 (100%)	30人 (49.2%)	12人 (19.7%)	19人 (31.1%)
(主な就職、業界等) 株式会社 UTILITY、瀬尾高圧工業株式会社、株式会社 ASA、株式会社中浜測量設計、Bright TMR 株式会社、同志社大学、京都産業大学、大阪経済大学大学院、桃山学院大学、武蔵野大学、相愛大学、ECC コンピュータ専門学校、文化服装学院			

(就職指導内容) 就職ガイダンス、マナー研修、進学ガイダンス、大学院対策講座、JLPT 対策講座、EJU 対策講座、学内進学説明会、面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導他
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験(N1) 6 名、日本語能力試験(N2) 34 名、日本語能力試験(N3)23 名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
148 人	7 人	4.7%
(中途退学の主な理由) 進学、進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および教務課による個人面談、出席管理、保護者連絡、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		語学ビジネス 専門課程	日本語学科（1.5 年）				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼間	1275 単位時間／ 単位	1350 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180 人		169 人	167 人	5 人	25 人	30 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目の単位認定は、以下の基準を満たすことで行う。 評価はすべての科目において A～F 判定のうち D 判定以上であること。
卒業・進級の認定基準

(概要) 【卒業の要件】卒業認定は以下の基準を全て満たすことで行う。入学後卒業までに3回以上定期テストに合格していること。出席率が80%以上であること。
学修支援等
(概要) 担任面談、電話等による個別指導、HRを活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
100 人 (100%)	45 人 (45%)	21 人 (21%)	34 人 (34%)
(主な就職、業界等) 株式会社阪急阪神ホテルズ、スイスポーティングジャパン株式会社、株式会社伸西工業所、イズミ工業株式会社、みとうメディカル株式会社、大阪公立大学大学院、東北大学大学院、神戸大学大学院、名古屋大学大学院、兵庫県立大学大学院、早稲田大学大学院、立命館大学大学院、関西大学大学院、北海道大学、大阪教育大学、同志社大学			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、マナー研修、進学ガイダンス、大学院対策講座、JLPT 対策講座、EJU 対策講座、学内進学説明会、面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導他			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語能力試験(N1) 12 名、日本語能力試験(N2) 49 名、日本語能力試験(N3)21 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96 人	9 人	9.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良、学力不振、問題行動による懲戒		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および教務課による個人面談、出席管理、保護者連絡、学生アンケートの実施、学生相談室との連携		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		語学ビジネス 専門課程	日本語学科（1年）				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

1 年	昼間	850 単位時間／ 単位		900 単位 時間／単 位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
		単位時間／単位						
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
300 人	151 人	132 人	7 人	37 人	44 人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） カリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの年間授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 各科目の単位認定は、以下の基準を満たすことで行う。 評価はすべての科目において A～F 判定のうち D 判定以上であること。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【卒業の要件】卒業認定は以下の基準を全て満たすことで行う。入学後卒業までに 2 回以上定期テストに合格していること。出席率が 80 % 以上であること。
学修支援等
（概要） 担任面談、電話等による個別指導、HR を活用した全体指導、学生相談室常設

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
163 人 (100%)	35 人 (21.5%)	18 人 (11%)	110 人 (67.5%)
（主な就職、業界等） 株式会社ジャパンホリデートラベル、キックソフト株式会社、株式会社ユアサデザインルーム、株式会社宇治園、株式会社 FTK、大阪舞洲ホテルマネジメント株式会社、凜ミュージック株式会社、大阪大学大学院、長崎県立大学大学院、立命館大学大学院、関西医科大学、京都産業大学、ECC コンピュータ専門学校、辻調理師専門学校			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、マナー研修、進学ガイダンス、大学院対策講座、JLPT 対策講座、EJU 対策講座、学内進学説明会、面接指導、志望理由書、研究計画書作成指導他			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験(N1) 11 名、日本語能力試験(N2) 51 名、日本語能力試験(N3)26 名			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
202 人	13 人	6.4%
(中途退学の主な理由) 就職、進路変更、学校生活不適應、家庭の事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および教務課による個人面談、出席管理、保護者連絡、学生アンケートの実施、 学生相談室との連携		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
グローバル	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
エアライン	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
国際ビジネス	80,000 円	910,000 円	190,000 円	
こども教育研究	80,000 円	860,000 円	190,000 円	
国際キャリア	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
アジア言語	80,000 円	960,000 円	190,000 円	
国際コミュニケーション	50,000 円	800,000 円		
日本語 (2 年)	60,000 円	760,000 円		
日本語 (1.5 年)	60,000 円	760,000 円		
日本語 (1 年)	60,000 円	760,000 円		
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/kokusai-self.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。 (学校関係者評価) 第 11 条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会 (以下「関係者委員会」という。) に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。 (関係者委員会の構成) 第 12 条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。 (1) 関連業界等関係者 2 名以上 (2) 卒業生 1 名 (3) 保護者または地域関係者 1 名 (4) その他校長が必要と認める者 1 名 2 委員の任期は、2 年とする。ただし再任を妨げない。

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く。

2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第14条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。

(学校関係者評価の評価結果)

第15条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

【主な評価項目】

(1) 教育理念・目標

- ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- ・学校における職業教育の特色は何か
- ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
- ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2) 学校運営

- ・目的等に沿った運営方針が策定されているか
- ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ・人事、給与に関する規定等は整備されているか
- ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
- ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
- ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した

教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

- ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか
- ・授業評価の実施・評価体制はあるか
- ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
- ・職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果

- ・就職率の向上が図られているか
- ・資格取得率の向上が図られているか
- ・退学率の低減が図られているか
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- ・学生相談に関する体制は整備されているか
- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- ・課外活動に対する支援体制は整備されているか
- ・学生の生活環境への支援は行われているか
- ・保護者と適切に連携しているか
- ・卒業生への支援体制はあるか
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

- ・防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- ・学生募集活動は、適正に行われているか
- ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- ・学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか (9) 法令等の遵守 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか (1 0) 社会貢献・地域貢献 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか (1 1) 国際交流 ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか 【評価結果の活用方法】 ・学校関係者評価委員会で協議した内容や課題については学内の全教職員間で共有するしくみづくりを実践した。そのうえで下記の取り組みを継続する。 ・人材育成目標やビジョンを明確化し、教職員、学生間において共有をはかる。 ・英語力、人間力の向上を目指し、企業様と連携のうえ特色のあるカリキュラムを提供し、3年制コースの内容充実と拡充をはかる。 ・ICTを活用する環境をさらに整備し、学生の主体的な学びを支援するとともにICT教育を推進する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社Kスカイ	2021年4月1日～ 2025年3月31日 【任期更新】	企業等委員
済美地域社会福祉協議会	2021年4月1日～ 2025年3月31日 【任期更新】	地域関係者
高校非常勤講師	2021年4月1日～ 2025年3月31日 【任期更新】	元大阪府立高校教頭
会社員	2021年4月1日～ 2025年3月31日 【任期更新】	学校卒業者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/kokusai-school-2023_01.pdf https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/kokusai-school-2023_02.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://kokusai.ecc.ac.jp/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001192
学校名（〇〇大学 等）	ECC国際外語専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人山口学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		95人	89人	97人
内 訳	第Ⅰ区分	65人	61人	
	第Ⅱ区分	17人	－人	
	第Ⅲ区分	13人	－人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				98人
（備考） 期間中において1か月でも支援対象となった場合には、途中休退学でも計上。 期の途中における支援対象外判定の場合も年間人数に反映。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-人	-人	-人
「警告」の区分に連続して該当	0人	-人	-人
計	-人	-人	-人
(備考) 退学時実施の適格認定（学業）の結果を含む。家計判定にて支援対象外学生の廃止判定を含む。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	-人	0人	-人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	-人	-人
計	-人	-人	14人
(備考) 退学時実施の適格認定（学業）、家計判定対象外学生の結果を含む。2回連続警告の場合には廃止に計上し、警告には算入しない。警告事由が複数ある場合、①GPA、②出席率の順に数値を入力しています。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。